

私の屋久島

上屋久町役場 松田賢志 さん



上屋久町役場に奉職して今年で20年になります。屋久島の観光を振り返ってみますと、20年前は観光キャラバンをそれぞれの観光地が都市部にかけて繰り広げていた時代でした。上屋久町でも縄文杉に象徴される屋久島をいかに売り出すかに苦心し、マスコミやエージェントに屋久島の存在をアピールするために、たいへんなエネルギーを費やしてきました。

先日福岡での、種子島・屋久島の観光キャラバンに参加してみたところ、世界自然遺産の島屋久島を知らない人はいませんでした。屋久島に行きたいという方々から「もっと詳しい説明を」と求められました。2002年は国際エコツーリズム年です。屋久島がその情報発信源になれるよう、原点に立ちかえって屋久島の良さを積極的にアピールし、こまやかなサービスを提供できる観光地づくりを目指して努力していきたいと思っております。

小杉谷で森林環境教育

「バッファゾーン整備事業」

小杉谷を中心とする森林生態系保護地域保全利用地区（バッファゾーン）とその周辺において、森林の仕組みや働き、接し方について学ぶための情報提供と森林環境教育の場の施設の整備を行うこととなりましたので、その概要についてお知らせします。

○小杉谷製品事業所跡地に小杉谷休憩舎（東屋）を建て、小杉谷の年表や写真パネルなどを展示します。

○再生した森林を歩くことにより、人と自然との共生について考える森林環境教育の実践フィールドとして、ヤクスの育成複層林内に自然観察路を設置します。

○辻峠から楠川歩道分岐間で四百年も壊れず残っている

楠川歩道を真似た石積工法等による歩道の補修を行います。

○楠川歩道分岐から大株歩道入口間の小休憩地点の数箇所に、植物名板などを設置します。

○関連イベントとして以下のことを行います。
・小杉谷休憩舎の開所式を



十月十三日（金）に行います。

その際、休憩舎の屋根を平木（ヤクスの小板）で葺く体験加工を行います。なお、今年度は、小杉谷製品事業所が昭和四十五年八月に約半世紀の歴史を閉じてから、三十年の節目の年に当たっていることから、その記念祭も併せて行います。

・自然観察会（日時・場所等詳細は未定）を全施設の完成時に行います。

ヤクタネゴヨウ増殖・復元緊急対策事業

地元説明会の開催
本事業の検討委員会（七月二十五日開催、本紙六十五号に掲載）の中でヤクタネゴヨウの増殖・復元の対策が議論されましたが、その結果を踏まえた今後の具体的対策につ

「屋久島の森林」

売れ行き好調

平成八年度から販売しているセルフガイドブック「屋久島の森林」が、好調に売り上げ部数を伸ばしています。

当センター職員が中心となり作成したガイドブックは、屋久島の歴史、自然、主要登山道等を紹介し、屋久島の森林に関する教育、啓発活動を行うため作成したものです。

平成十一年度までに、五千

屋久島の植物



ヤクシマリンドウ (リンドウ科)

屋久島の固有種。標高千七百mを越える山頂の岩のすきまに根を下ろして生育している。茎は高さ七、十五cm。花は長さ約3cmで、茎の先端に青紫色で筒形の花を一個つける。花期は八月。細かい葉を輪生する点特徴で他の種から直ぐ識別できる。

いて、上屋久町、屋久町等の地元関係者に周知してもらうための説明会を、九月六日事業の委託先である林木育種協会が行いました。協会の方から、自生地のヤクタネゴヨウから穂木を採取し、接ぎ木した苗を養成し遺伝資源保存林と採種圃を造成することでヤクタネゴヨウの現地外保全を図るとの説明がありました。

これに対し、出席者からは、

二百七十三冊を販売し平成十二年度は、三百六十九冊を販売しています。

購入者からは、「屋久島の主要登山道等が掲載されており、B六判で手軽に所持できる」と好評を得ています。

なお、屋久島森林管理署・当センター・ヤクスギランド・白谷雲水峡等で一冊千円で販売しており、ホームページから電子メールでの注文もできます。

（<http://www.infobears.or.jp/inokuma/>）

お知らせ

「屋久島の山岳トイ

レ問題」全国大会へ

十月二十六日東京で開催される「国産林野事業業務研究会」で、前保全センター専門官の川崎秀親（現大隅森林管理署業務第一課長）が発表します。

なお、同発表課題は、昨年九州森林管理局で開催された「森林の流域管理システム推進発表大会」で、保全センター・上屋久町・屋久町の共同発表により、九州林政連絡協議会長賞を受賞しています。

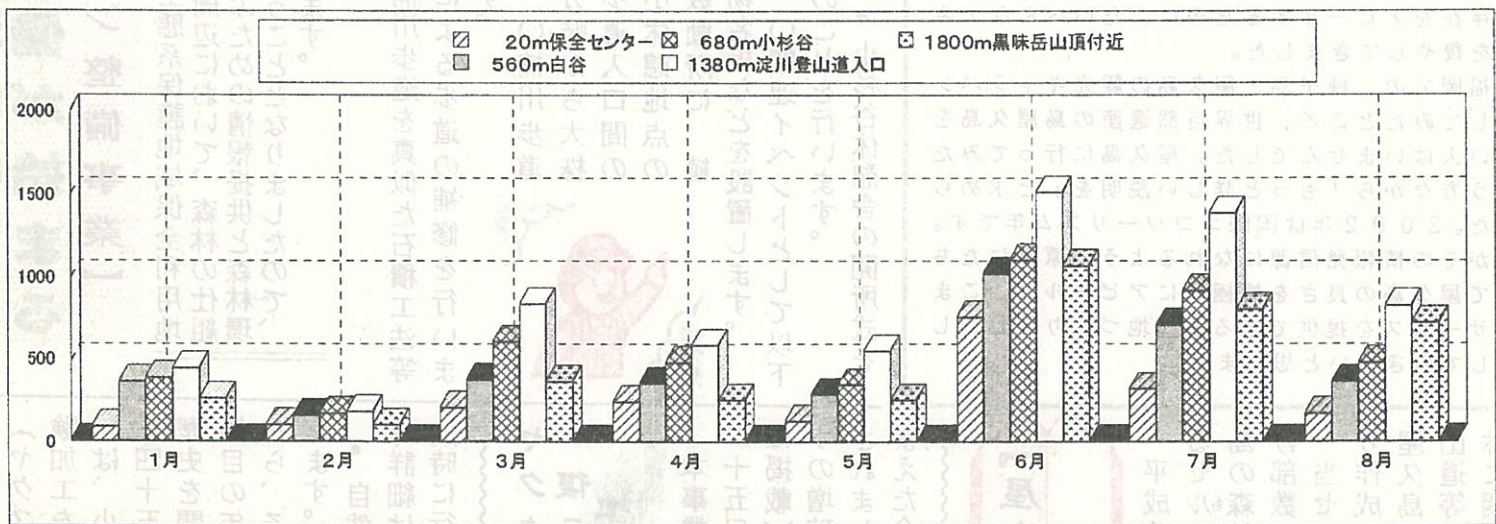
最新版雨量データ

平成12年地点別雨量一覧表

雨量計設置箇所	標高	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	計
保全センター	20m	93.0	106.0	216.5	247.5	129.5	763.5	327.0	180.5	2,063.5
宮之浦林道	500m	346.5	155.5	191.0	275.0	312.5	1,019.5	921.0	458.5	3,679.5
白谷	560m	372.5	169.0	385.5	356.5	294.0	1,019.5	716.0	374.5	3,687.5
小杉谷	680m	393.5	178.5	613.0	484.5	353.5	1,105.0	924.5	482.5	4,535.0
大川林道	1020m	378.0	165.0	393.5	249.5	254.0	976.0	862.0	539.5	3,817.5
淀川登山道入口	1380m	447.5	194.0	835.0	589.0	550.0	1,518.0	1,383.0	831.0	6,347.5
黒味岳山頂付近	1800m	270.5	111.0	370.0	253.0	262.5	1,065.0	805.0	728.0	3,865.0
永田カンカケ岳付近	730m							815.0	473.0	1,288.0

永田観測点については、平成12年7月12日に設置

標高別雨量比較表



この表から見ると、標高が高くなるにつれて雨量も多くなり黒味岳1800m付近はかえって少ないことが分かる。
 なお、著名屋久杉の分布している標高600mから1300m付近は、最も雨量が多い箇所であることが分かる。

平成11年、12年 月平均雨量比較

月平均値	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
平成11年	165.3	302.1	1,141.2	405.7	699.9	1,128.3	1,277.8	1,265.8	1,208.5	399.0	156.9	205.6	8356.1
平成12年	328.8	154.1	429.2	350.7	308.0	1,066.6	848.4	513.5					3999.3

この平均値には、永田を含めない。

この平均値には、雨量に影響すると思われる欠測のある月は含めない。

